

すすもし

Vol. 2, No. 2

1952年2月

倉敷昆虫同好会

岡山県東北部の好採集地

安東瑞夫

過日小野さんへの手紙の中に作東(美作東部)の採集地についてお知らせしたところ是非投稿される様ヒツヒニとて県南の皆様に少しでも御参考になればと思いつつ、ここに再び筆をとった次第です。昆虫全般にわたる知識に乏しい點一方に偏するような結果になりがちですがこの点お許し下さい。

1. 那山芝山 この山に就いては詳しくは西村君によって(すすもし Vol. 1, No. 1)すでに御存知のことと思います。但し昆虫相は岡山県側は概して平凡で鳥取県側が豊富です。岡山県側について少々述べますと中腹には菩提寺蛇窓の逸名があり倉敷方面からすると岡山へ林野までバス(約1時間)林野へ着脱してス50分で山麓に達しその他津山線を利用され津山下車「行方」行バスに乗ら水里又乃至行方で降りれば簡単に登れます。中腹の菩提寺は宿舎としては便利ですが、昆虫相は餘り豊富で全く蝶ではカラスアゲハ、オナガアゲハ、クロアゲハ、ワタギンシジミ、サカハチチョウなどと云った位で目新しいものは採れません。裏の小池(一回半四方くらい)には時折タカネトンボの等が見られ甲虫ではヤツメガミゼリ(櫻の木)マガタマハシヨウ、アヤサンオサムシが採れている。蛇窓附近にはキイントリに近く渓流附近にはホソバセセリ、サカハチチョウ、カラスアゲハ等色々産しミヤマカラスアゲハも採れる。渓流性トンボではミヤマカワトンボ、ミルンヤンマが見られる。蛇窓の上の構体ではアサギマダラ、ヒメキマダラヒガケが見られアナボクではアジミドリシジミがとれる。頂上附近では一面熊笹となりキアゲハ、アサギマダラ、ツテグロヒヨウモンが多く見られその他ゼフィルス、ヒヨウモン類、ヒヌキマダラセセリもあり。

2. 後山 岡山県最高峰であると共に女人禁制の聖山として有名で金山羽葉樹の原生林に覆われた好採集地で蝶ではモンキアゲハ、ミヤマカネスアゲハ、

2(12)

ウスイロヒヨウモンモドキ、ブジミドリシジミ等を産し、ウスイロヒヨウモンモドキは山麓の草地に多く発生する(6月下旬)。又ヒメヒカゲの記録もある。その他今夏川村博士(京大名誉教授)を迎えて生物総合調査が行われた時はウラジマリメガヒル正、本種の飼育の分布は中部山岳以北となってい正ものであるが、最近林慶二郎先生より島根県よりとしたとの報告を受けている。

前回日他にもう一頭採集されたと聞く。特に蝶は多産するのではないかと思うが何分この方面は専門?でないので調査が出来ない。又トンボではミルンバシマを産しオジロサナエの如き稀品も採集されている。又今夏900mの高地でホソミオツホントンボが採れているがチヨット面白い。又ギアチヨウの食草であるアベニアイの類が自生している吳ギアチヨウがどれのではないかと考えらる。その他蝶類、天牛類が豊富である。いずれにせよ未開の地であるので今後大いに期待出来る地域である。但し交通の便悪く林野或は江見からバスで大原まで行き8km~10kmは徒歩で行かねばならない。

3. 白水滝 新線上居駅下車徒歩。センキアゲハ、コノマキヨウ(ケロコマキヨウ?)がこれている。他については全然不明である。

1その他的好採集地としては日名倉山(ハッチャミウトンボ作業唯一の产地), 原山, 日本原などがある。小地域的なものでは大原町の神社のエノキの祠裏にはオオムラサキが多く、林野高校裏手の小さな谷には春の女神と云々べきウスバシトヨウがセンシロチヨウの如く飛翔し(但し昨年は少なかった)スジボソヤマキヨウもかなりとれる。以上簡単に總め正が僅少なりヒモ参考に乍れば幸甚である。尚いろいろ御教示下さった林慶二郎氏、西村公夫君に対し深謝の念を表します。

鳥取県下に於ける *Zizina otis alope* の記録

西 村 公 夫

本県は1945年頃岡垣弘氏に依り記録せられて以来次の数ヶ所が発見地としてあげられる。その確実なものだけ発見の順に並べてみると、

番号	発見地	海拔	最初発見者	年
1	東伯郡矢掛村内金附近天神川堤(上流)	200	岡垣弘	1945
2	日野郡石見村中石見	400	岡垣弘, 竹内亮	1946
3	日野郡日光村金屋谷	260	西村	1950.7.22

(13) 3

4 東伯郡上井町天神川堤(下流)	30. 伊東祐英	1951. 7
5 島取市新葉屋, 西邑治町, 気高郡大正 村, 千代水村, 千代川堤(下流)	10 中井 衛	1951. 8. 13
6 気高郡千代水村, 大正村野坂川堤	10 中井 衛	1951. 8
7 岩見郡西影村新葉川堤西影宿附近	12 山本謙彰	1951. 8
8 島取市立川町5丁目島取東高校舊通町 グランド	5 堀谷正徳	1951. 8

以上8ヶ所の発見は天神川堤以外のものは何れも以外なものであった。天神川流域のものは恐らく福原に分布していしたもののが侵入したものと看えられ、中石見のものは海拔から云っても恐らく岡山県から車等によつて移植したものと看えられる。大平原及び海岸のものは西から侵入したものであろう。

その他県外者によつて西伯郡大山村赤松附近で発見されたと云うが不確実である。印以外の個体は少數得られてゐる。

Literature

鈴木太郎 : シルヴィアシジミの未記録県 新昆虫 Vol. 4, No. 2, 3 P. 36 1951

中村正直, 小林半 : 東京に於けるシルヴィアシジミの記録 新昆虫 Vol. 3, No. 10, P. 20 1950

小林一彦 : 島取附近のシルヴィアシジミの記録について HISAMATSU
Vol. 1, No. 2, P. 12~14 1951

西村公夫 : 楊原谷 Entomological Investigation Vol. I, No. 2,
P. 5, 8 1951

西村公夫 : 播磨昆虫研究所報告 Vol. IX, No. 1, P. 5 1951

西村公夫 : 播磨昆虫研究所報告 Vol. IX, No. 4, P. 6 1951

西村公夫 : 播磨昆虫研究所報告 Vol. X, No. 1, P. 12 1952

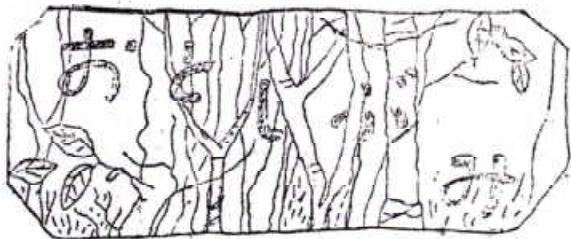
訂正 アカセセリ → ゴキマダラセセリ

ウラジロミドリシジミ 食草, ミズナラ → カニワ

Kimio Nishimura

January - 28 - 1952.

4 (14)



1951 年度

蝶の初見

昨春私が観察し得た初見を幸いにノートしていくので主に私個人の初見で範囲がせまく甚だ不完全なるものであろうが本年度初見の参考迄にここに報告する。(なお性別もわかるものは附記した)

- 1 アゲハ 3.24 倉敷市酒津(1♂)
- 2 キアゲハ 4.8 山手村福山
- 3 ツマキチョウ 3.27 清音村黒田
酒津水門(1♂)

(以下上記のものは市町村名略)

- 4 ツマケロテチョウ 4.5 黒田
- 5 テンケチョウ 3.27 黒田
- 6 ヒオドシチョウ 3.18 酒津水門
- 7 アガタテハ 2.6 倉敷 堀南
- 8 ツマケロヒヨウモン 4.29 福山
(1♀)

- 9 ベニラジミ 3.31 黒田
- 10 コツバメ 3.27 黒田
11. ミヤマセセリ 3.27 黒田

(1951.12.26)

追記

12. アカシジミ 6.3 黒田

なお最後にすずめの実味所終見を参考迄記しておく。

エムラカゲ 10.7 黒田 (1♂)

レンキチヨウ 12.19 岡山市門田
(1♀)

(広瀬義躬)

ウリハムシモドキ の大発生

Luperodes menetriesii FALDE-RMANN ウリハムシモドキは北海道本州、四国、九州の外様太、シベリヤにも分布し、幼成虫とも多數の植物を食害するものである(日本昆蟲誌1950)が、昨年(1951)6月上旬から岡大教育学部の芝生一帯に本種の物導い大発生を見た。その数は中、下旬から7月初めにかけて最盛となり9月初めには既に消滅した。このシベは新らしく植えられて、いま非常にまだなものであるが、その姿はさまってここのみで見られ、しかもその数は實に多數で庄まには重なり合う程であった。中には多くの卵を有し巨大な腹部を持つ仔もかなり見られ、各個体は實に目立つるしき程の高速度で常に走り歩き行手に葉があればよじ登り、走り降り、或は飛り越え、その下を走りぬけ、一方に向って、こちらに向ってとわせもなく甚だ忙しそうに走り続けていてまさに障害物競走を見ている

感であつた。葉の攝食の鳥でもなく産卵でもなし、先尾の目的でもない様で、時にはこちらから這を横切ってこちらのシバへと移り、又ががぶつかり合っても又は互いに目を追ってもヒョドリもない。しかしこゝに発生する以上シバとなんらかの関係を持つに違いないはずでこの不可解な活動を見る鳥にしぶしぶこゝに来て観察したが、それは朝の日も風の日も続けられた。いかしゃばり、晴天の場合がより顕著であつた。その行動はウリハムシなどに較べて

(15) 5
ベビーハウスで、走ること多く飛ぶことは少ない。

今年も誕生すれば「本人とか、これらのことを見て見よう」と思っていい。

尚本種は1951年7月21日広島県道後山でも見にべ少年く1個体採集してい
る。本種の翅膀あ黒色の個体は一見ケ
ロウツリハナミシに似ている。

(小野 洋)



蝶の採集と研究

水野弘造

る1月21日、岡山市内山下小学校で行われました岡山県科学経験発表会に備
備部からの一人として発表したのですが、先日、小野洋さんよりそれを“す
い”に出しては、とのお勧めがありましたので、面白いものではありません
と改めます。作文として綴ったので読みにくいかもしれませんが、科学経験発
表会で発表したとありますようにしません。

僕は小さい時から虫が好きで、セミ、トンボ、バッタ等を集めて家では箱に入れておいたものだ。丁度、小学校三年生になった時、報類のあじが昆虫採集の仕方や標本の作り方を教えてくれたので、それ以来僕の採集熱は息に高まり、毎日網を持って野山を走り廻るのが常となつた。始めの内は昆虫なら何でも……と思っていたのであるが、だんだんと美しい蝶にだけ心を引かれるようになつて、標本箱一ヒ云ってもありあむせの空箱を利用してその一の中にはほとんど蝶ばかりとなつた。それに近所の上級生がよく協力してくれたので非常に珍らしい種類もかなり取れたのである。又、冬の頃は集めて家で蝶の鱗粉蒸卵の旨味で那

6 (16)

に写しそり、けんび鏡でのぞいてみたりして研究したものだった。又、農のミカンの葉を食うアオトシが、ナミアゲハの幼虫であることを知って、二令幼虫から蛹になるまで飼育観察したことには、小学生三年生の僕としては大出来だったと思う。あしいことには既になら前に、飼育中の蝶と知らぬいでなくされてしまって最後まで観察できなかつた。

では、その頃你樂した蝶の名前をあげてみよう。

○アゲハ蝶科では

ナミアゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、ジャコウアゲハ、クロタイマイ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、モンキアゲハ、ギフチヨウの九種類で、中のモンキアゲハとミヤマカラスアゲハとは、その地方（高島県佐伯郡宮内村）では非常に少ないのであつた。又、ギフチヨウのふうな珍らしい種類が、同地のよう本海岸近くで割合に取れたと云うことは面白い。ジャコウアゲハは、春ツツジの花に来るのを武山取ることが出来た。その他この程は春重秋の間中海を見ることが出来た。

○ブン蝶科では

ツマキチヨウ、モンシロチヨウ、スミグロチヨウ、キチヨウ、ツマグロチテヨウ、モンキチヨウ

の六種類で、ツマキチヨウは春四月ごろだけ見られた。他の五種は、ほとんど一年中どこにでも見ることが出来た。ツマグロチヨウ裏型がキチヨウ裏型とよく似ていて、とても見分けにくいのは面白い。

○セセリ蝶科では

アスバセセリ、ダイミヨウセセリ、イテモンジセセリ、ハナセセリ（オオチャバネセセリ）、チャバネセセリ、ミヤマチャバネセセリ

の六種類じか取れなかったのは、この類が小型でかつ美しくないので注意しなかつたのであろう。中のアオバセセリ、ミヤマチャバネセセリは非常に珍らしいもので毎々一回づつしか取ったことはない。ダイミヨウセセリもあり多く本がつたようだ。他に普通種。

○タテハ蝶科では

アカタテハ、ヒメアカタテハ、ルリタテハ、コミスジ、イチモンジチヨウ、スミナガシ、テタテハ、ヒオドシチヨウ、コムラサキ、エマダラチヨウ、ノモザタヒヨウモン、ウラダニヒヨウモン、オオウラバンヒヨウモン、ウラバ

(17) 7

ンスジヒヨウモン、オオウラヂンスジヒヨウモン、ミドリヒヨウモン、メス
グロヒヨウモン、ツマグロヒヨウモン

の十八種がヒルした。スミナガシは山地性の蝶で非常に少いらしく、自家の電
燈に飛来して一匹を取ったのみである。又、ヤタテハ、ヒオドリテヨウ、ゴ
マダラテヨウ等の他地方では深山いる蝶が同地では稀にしか取れなかつたの
は、どんな理由によるのだろうか。ヒヨウモン類は非常に多く、6～7月頃
と9～10月頃に取れたが、10月頃のものは夏を越したもので多くは飛来して
ゐていたり、色があせたりしている。10月頃にはソバの花に多く集つていた
ようだ。それも午前中が多い。他は普通種。

○ジヤイメ蝶科では

ヒメジヤイメ、コジヤイメ、ヒカゲテヨウ、ジヤイメテヨウ、クロヒカゲ、
ヒメカラナミジヤイメ、キマダラヒカゲ、コノマテヨウ
の八種を採集。コノマテヨウは非常に珍らしく唯一回の記録があるだけであ
る。クロヒカゲは少なく、ビニにでもいるとは云えまい。キマダラヒカゲは
春から出て来るが他の多くは6月頃、飛んでる。

○テング蝶科では

テングテヨウ。

カ一種で同地では少く、山に登らねば取れない。

○シジミ蝶科では

ヤマトシジミ、ルリシジミ、ツバメシジミ、ムラサキシジミ、オオミドリシ
ジミ、カラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミ、ベニシジミ、カライン
シジミ、ゴツシジミ、カラナミシジミ

の十一種を取つた。どれも普通種であるが、オオミドリシジミ、ミズイロオ
ナガシジミ、カラナミアカシジミ等のセフィルスは6月頃雜木林にいるとい
うことを知らなかつたので、あまり取つたことはなかつた。ゴイシジミは幼
虫が竹のアブラムシを食う關係で特定の笹やぶに行かなければ取れなかつた。
ウラジミシジミは9月頃から急に多くなる面白い種類である。

以上の五十九種の蝶を小学校3～4年生の頃に取つたのである。これらは全部
広島県佐伯郡宮内村で取つたもので、宮内村の下を海岸の低山地に、これ等
どの種類がいることは不思議なくらいである。 (つづく)

8 (18)

新入会員

金原 鶴 氏名

46 小川 大石

学年又は職業

岡大教育学部

——会員より——

岡大医学部勤務の黒田祐一氏は力
ミヤリの研究家としても名高い
が本年初当ペキスタンへ並行された。
2ヶ月余り滞在して帰国される由で
南國に於ける昆虫採集記も帰国後す
すむしに寄せて下さるようである。
会員諸氏と共に首を長くして氏のす
ばら飛びエピソードをお待ち下さい。

又本会中堅会員として多大の活躍
を耀かれていた中澤寛次氏はこの
度3年に亘る大原農業研究所にあけ
る研究生生活を切り、帰郷後、郷里
で新歩的多くの農業を経営されるこ
ととなった。御帰郷先は勝田郡北若
野町大字である。今夏、那岐山への
昆虫採集には是非お出で下さいとの
ご言ひである。有志諸氏と
共に盛んに、折断到
来を待ちたい。

編集後記

前回の試験ニーズン到来。多くの諸元は
代続の方蔵で相当勉強出来たことと御推
察する。本号も又編者の方人の理由によ
り会誌の発行の遅れにことを深くお詫び
する。本号には蝶の分布に関する記事が
多い。大分参考になることと思う。佐藤
氏の初見に関する論述、小野氏の生態観
察も面白い。小野氏の熱心さには敬服す
る。

経済力の乏しい本会としては毎月翻写
機は二三の学校で借りて会誌の印刷を行
っているが今月は灰野良一氏の手を煩わ
して試験期で忙しいにも拘らず貴際高
校より借りて戴いた。ここに録記して謝
意を表する。

すすむし 第2巻第2号

昭和27年2月29日 印刷

昭和27年2月29日 発行

青野 康昭

企

倉敷市新川町

倉敷市小学校理科教室内

倉敷昆虫同好会

